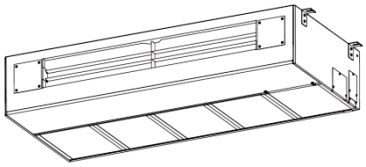
PFS012D001A Ⓑ

天吊耐油形　据付工事説明書



三菱重工

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。　ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。⃠絶対に行わない　❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。
●この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

⚠ 警告

●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。

●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13）
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付ける。
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。

●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●**配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。** 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●**室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。** カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●**据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。**冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●**配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A 専用のものを使用する。** 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●**フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。** フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。

●**ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。**
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。

●**据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。**
冷媒配管を取り付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●**ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後、配管を外す前に圧縮機を停止する。**
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●**オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。**
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●**改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。**
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

●**エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。**
据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

●**室内機の修理・点検作業に際して「室内ユニット電源ブレーカ」を必ず落とす。**点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●**パネルやガードを外した状態で運転しない。** 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●**元電源を切った後に電気工事を行う。**
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

⚠ 注 意

●**耐油用エアコンは厨房や工場の油を吸い取る機器ではありません。**
油煙などの排出にはレンジフードなどの専用の排気装置を設けてください。

●**アース（接地）を確実に行う。**
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。

●**漏電遮断器は必ず取り付ける。**
漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

●**正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋ Ｂ 種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。** 不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。

針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。

万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。 熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。

スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。 室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。

保存物の品質低下等の原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。 インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。

リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付けは避ける。

- 可燃性ガスの漏れる恐れがある所
- 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
- 油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
- 酢酸や次亜塩素酸を大量に使用する所
- 高周波を発生する機械を使用する所
- 海浜地区等塩分の多い所
- 煙突の煙がかかる所
- カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
- 車両・船舶等移動するものへの設置
- 化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
- 積雪の多い所
- 標高１０００ｍ以上の所

性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内機の据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。

- 吸込口、吹出口に風の障害物がある所
- 強度が不十分で振動が発生する所
- ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
- 高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
- ドレンの排水がとれない所

性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

●理・美容院における設置は避けてください。

脱色剤などに混入される硫酸ガス、または酸性の溶液により、溶接部が腐食することがあります。

●エアコンから吹出した風が直接、火気に当たる場所への設置は止めてください。

不完全燃焼や火災等の原因になることがあります。

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。

湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。

湿度 70%以上で長時間運転した場合も同様に室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。

●食品の熱さましなどエアコンから吹出した風を直接当てる使用は止めてください。
露が滴下して品質低下の原因になります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。

●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、断熱材等が損傷(ピンホール)して、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認する。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●GHP〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。 また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。 試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管・ドレン配管の断熱は結露しないように確実に行う。 不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は充分注意して行う。 20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。
PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。 梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。

●フィルターをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。 運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●ドレンポンプを使用の場合は定期的に内部洗浄を実施する。
一年以上清掃を行わないと故障して排水できなくなる場合があります。

① 据付けのまえに

●据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。

●次の項目を確認してください。

〇機種・電源仕様　〇配管・配線・小物部品　〇付属品

付属品

本体吊り込み	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金	パイプカバー		バンド	塩ビソケット	ホース	クランプ	断熱材
M10	太	細		VP25			
8 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	2 個	3 枚
吊ボルト用	ガス管断熱	液管断熱	パイプカバー	本体側接続	ドレン配管とホース接続		接続部断熱

② 室内ユニットの据付場所の選定

① 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設を検討してください。

・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。

・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。

・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。

・侵入外気の影響のない所。

・直射日光の当たらない所。

・周囲の露点温度が２３℃以下、相対湿度８０％以下の所。

本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、必要に応じて結露対策をお願いします。

・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）

・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。

・調理器具が発する熱の影響を受けない所。

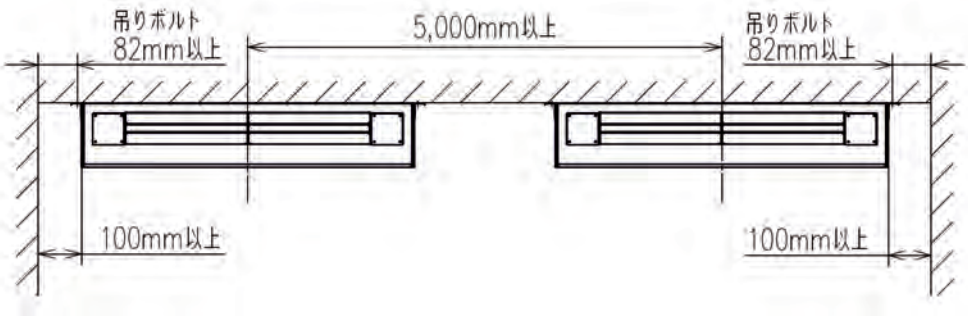
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。

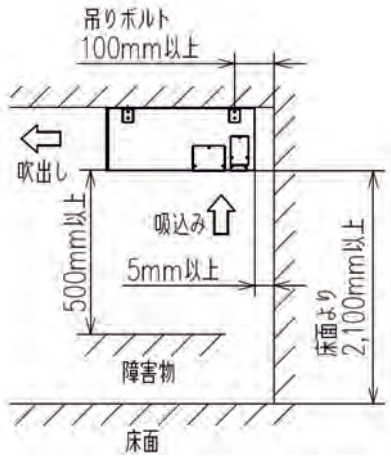
・ 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。（ ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。）

② 据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

③ 複数の室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を５ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース





吸込み側に十分な空間が無いと部分的に気圧が下がり、この影響を受けて 吹き出した風が引き込まれショートサーキット原因になることがあります。

③ 据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。

〇システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合

吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。

〇強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合

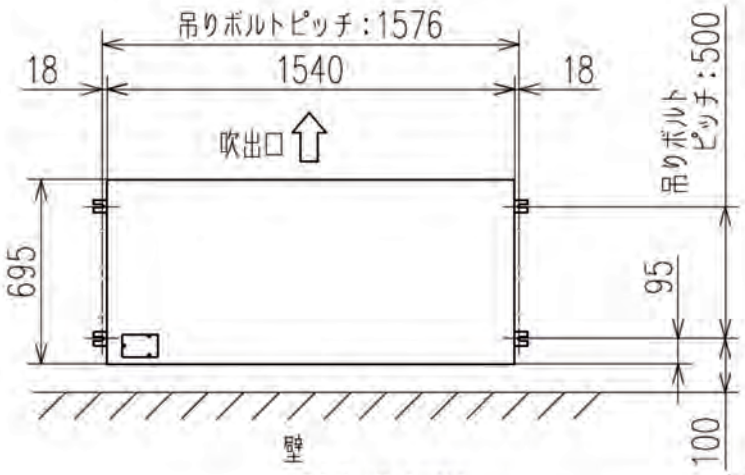
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。

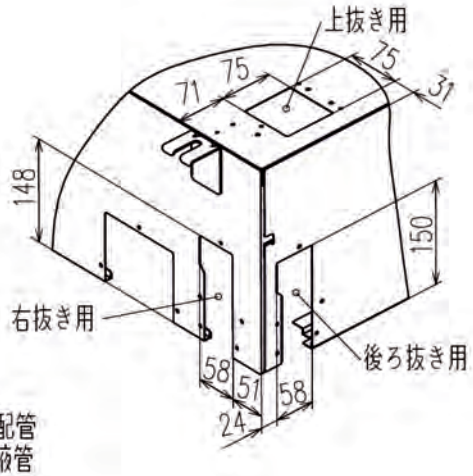
●吊りボルト・ナット・バネ座金（M10 又は M8）を4組現地にて手配してください。

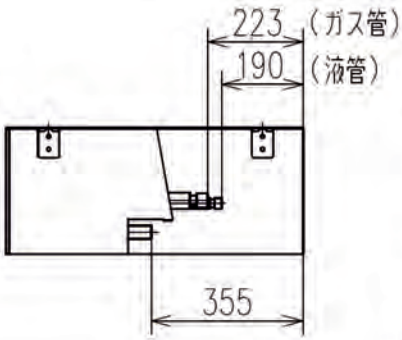
1本当たりの引抜強度は、1.25kN 以上になる方法で建物に固定してください。（吊ボルト長さ 1m以内の場合）

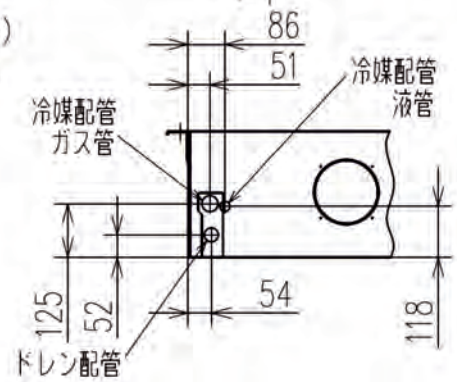
また、吊ボルト長さが1mを超える場合は、耐震計算等により強度確認を行ってください。

吊ボルトピッチ・各配管の位置

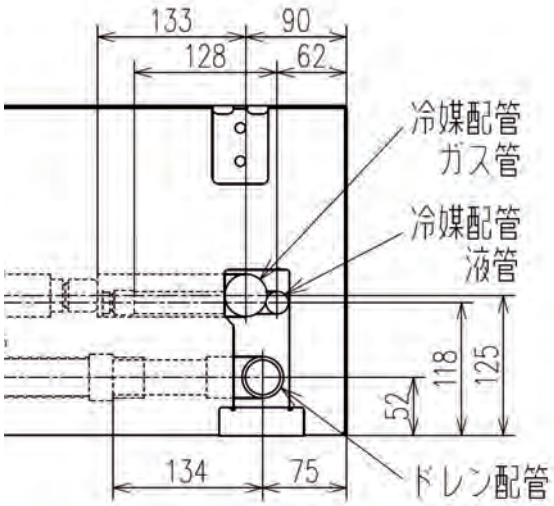




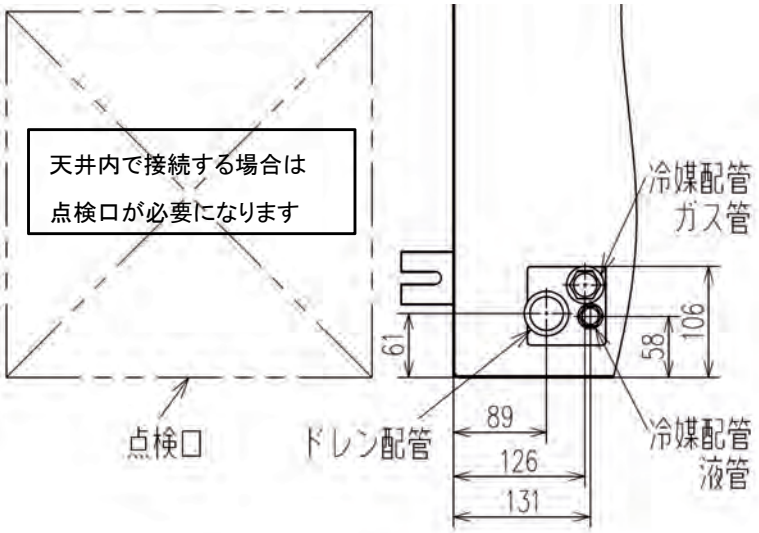




右側面へ配管を抜く場合の位置



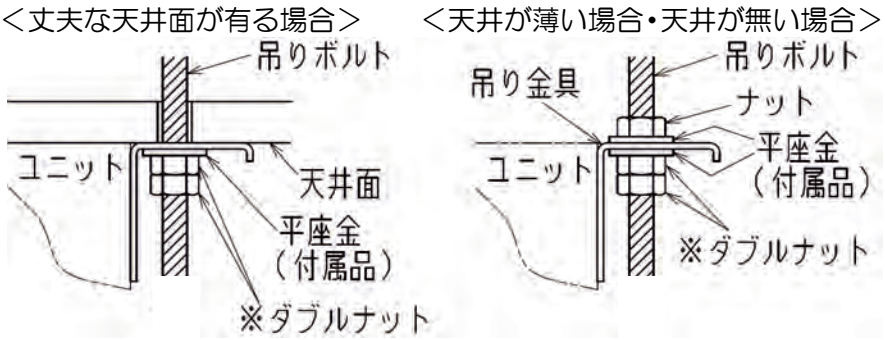
天面へ配管を抜く場合の位置



④ 室内ユニットの据付

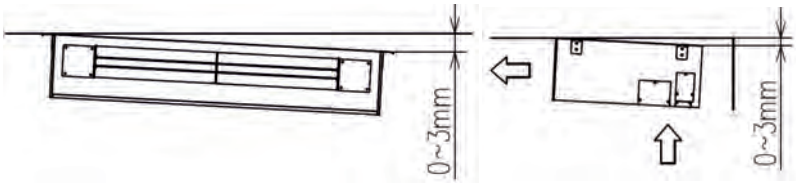
作業手順

1. 吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行ってください。
2. 天井が無い場合・天井面が丈夫で無い場合は、吊金具の上側にもナットを入れてユニットが持ち上がらない様に上下から固定してください。



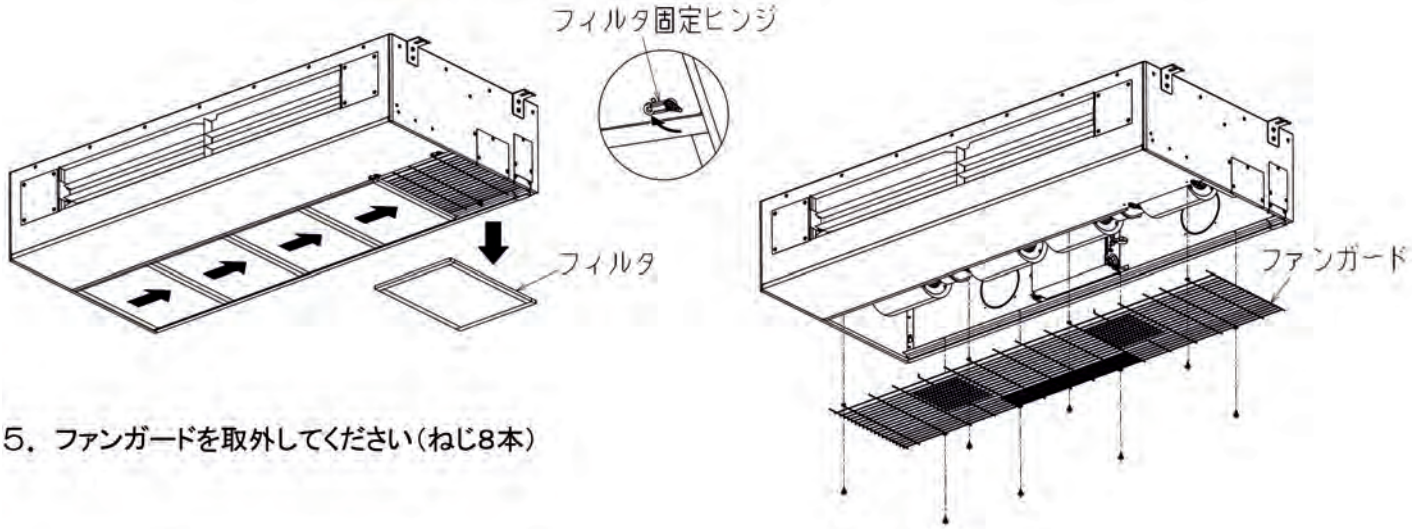
※ダブルナットで確実に固定してください。

3. ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。



ドレンポンプを装着される場合は基準を超えてユニット傾斜を設けると、配管詰り等の万一の場合にドレン水があふれ出る原因になりますので厳守してください。

4. エアフィルタの取外しは、配管側の一枚を固定のヒンジを回転させて外した後 、残りを横にスライドしてください。



5. ファンガードを取外してください（ねじ8本）

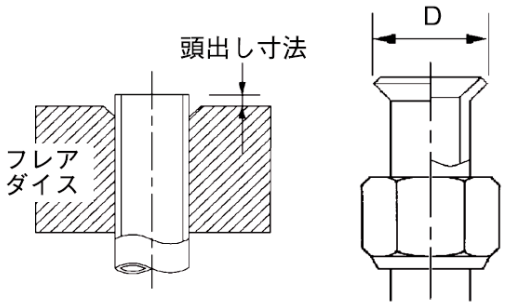
⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●**冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは製品に付属されているもの又は JIS B8607 2 種適合品を使用してください。**既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。

1)再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属されているものまたは JIS B8607 2 種適合品を使用すること。

2)再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。
加工後 D寸法を確認してください。フレア面にバリ・傷が無いことを確認してください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアーナット締付けトルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R410A 用	従来ツール		
9.52	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82

●**冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管**
（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。 冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。

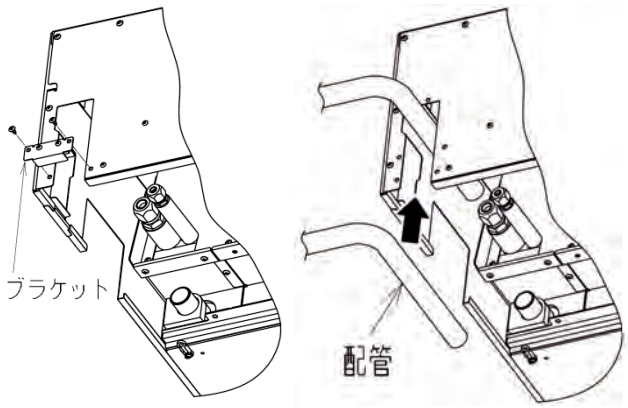
●**R32 用またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。**
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

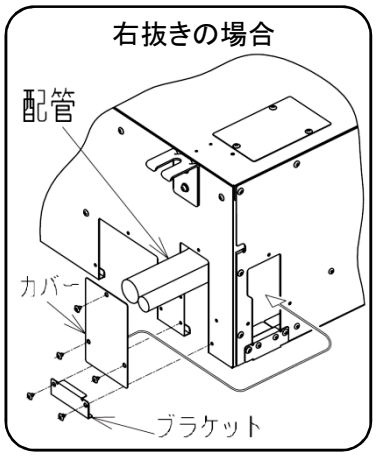
●**据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも ろう付けする直前までシールしてください。**冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

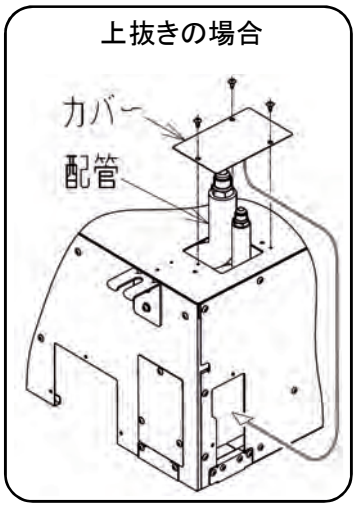
●工具は R32 用またはR410A専用ツールを使用してください。

注意 **同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、フレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。**
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

作業手順







1. 右抜き又は上抜きの場合、外した板金カバーを背面穴に取り付けてください。

2. 外板貫通穴にエッジング（付属品）をはめ込み保護してください。

3. 室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。

※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）

●フレアナット飛びに注意してください。

（内部に圧力がかかっている場合があります。）

4. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。

※ 配管の曲げは 4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また、配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。

※フレア接続は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで前頁表の締付け力で締めてください。

5. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締付ける。

●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

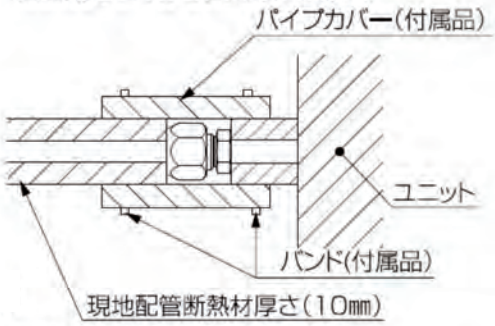
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。

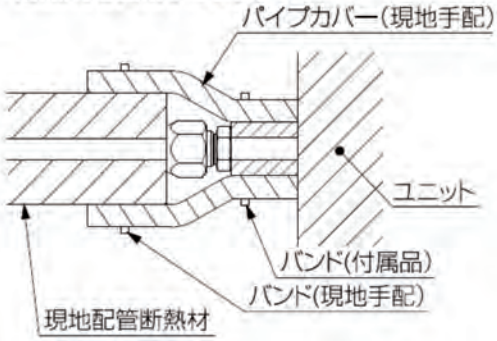
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。

天井内・壁内を通す場合、現地配管断熱材厚さ 20mm 以上を推奨します。

〈断熱材厚さ10㎜を使用する場合〉



〈断熱材を強化する場合〉



6. 冷媒は室外ユニットに充填されています。

室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

⑥ ドレン配管

●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向きがあります。

●ドレンポンプ（別売）を組込み上向きすることができます。

注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。

不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。

室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

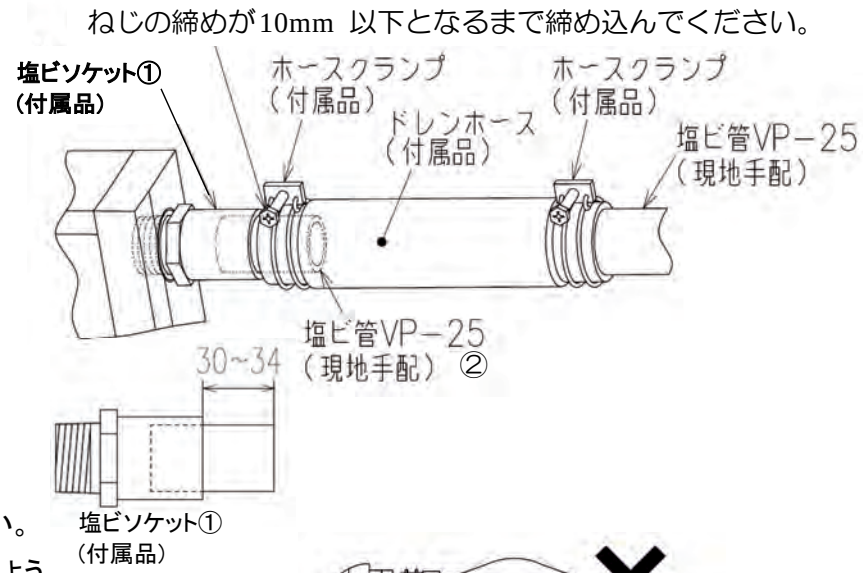
●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。

●試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

作業手順

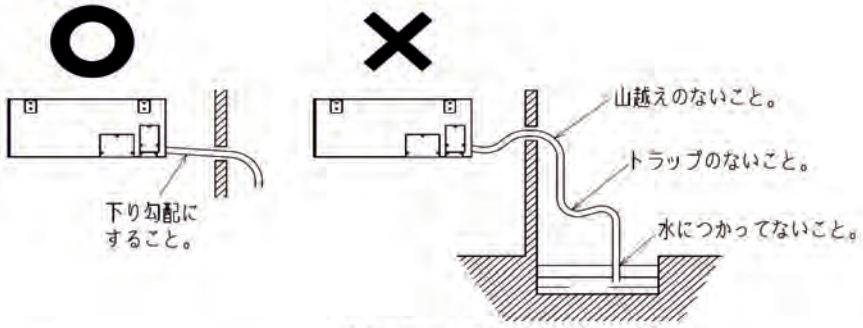
1. 付属の塩ビソケット①に塩ビ管 VP25
   長さ 50～55mm②を接着。
   (出代 30mm 以上)
2. 本体ドレンパンへ塩ビソケット①②を
   ねじ込む(シールテープ等使用)。
3. 付属のドレンホースを塩ビ管②出代部分
   に指し込み、付属のクランプで確実に
   締付けてください。(接着剤使用不可)

注意:・クランプはホース先端部より 5mm
程度のところに取付け、ねじの締めが
10mm 以下となるまで締め込んでください。

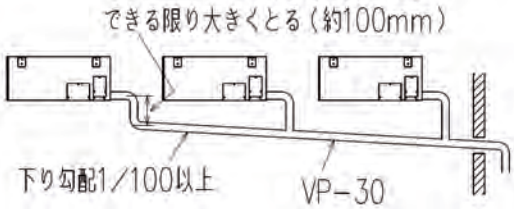


4. ドレンホースは、ユニット内でたるませないよう
   注意して勾配をとってください。

5. ドレンホースに市販の硬質塩ビパイプ一般管VP－25
   (現地手配)を接続してください。(接着剤使用不可)
6. ドレン配管は下り勾配
   (1／100以上)とし、途中山越えやト
   ラップを作らないように施工してくださ
   い。



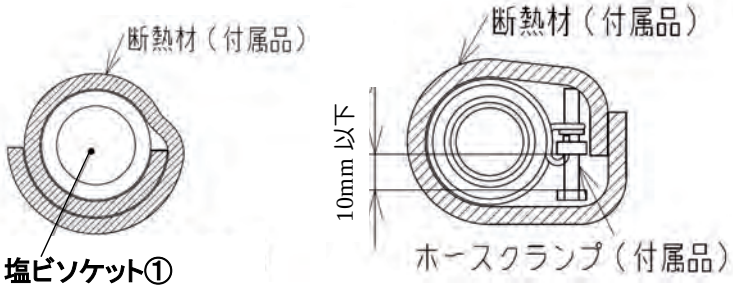
●複数台のドレン配管の場合、
本体ドレン出口より約 100mm 下に集合管が
くるようにようにしてください。
また集合管はVP－30以上を使用してください。



7. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

**●塩ビソケット①及びドレンホースクランプは付属の
断熱材を使用して断熱してください。**

**●高湿度の環境で使用する等、ドレン配管に結露す
る恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加
する等結露に対する配慮をしてください。**



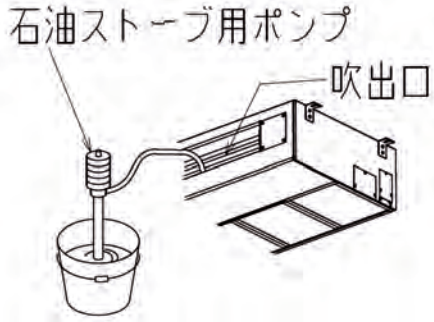
ドレン排水確認

**●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、
水漏れのないことを確認してください。**

●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

**●内蔵ドレンポンプ(別売)使用時は、約 2000cc のドレン水が溜
ります。確認は約 4000cc の水を徐々に入れてください。**

ドレンポンプ試運転は、リモコンからまたは室内コントローラ
SW7-1 の切替で強制運転ができます。
(確認後はスイッチの戻し忘れにご注意ください)



⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

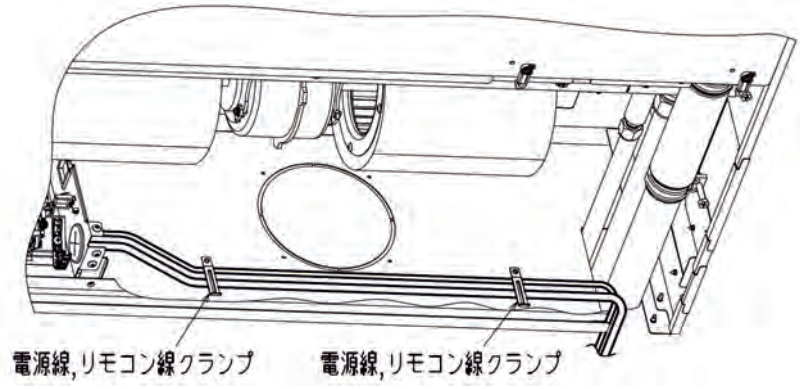
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

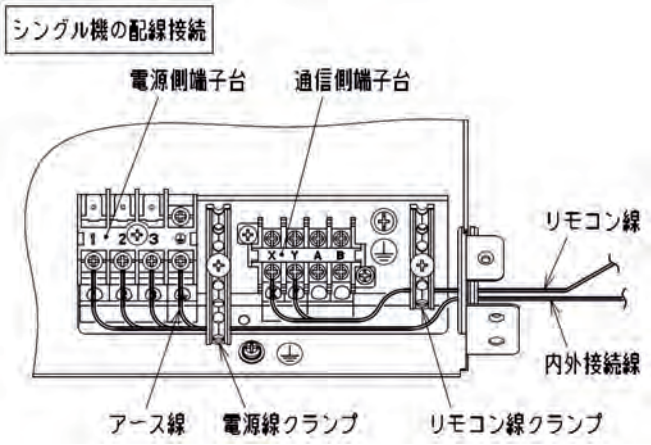
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。

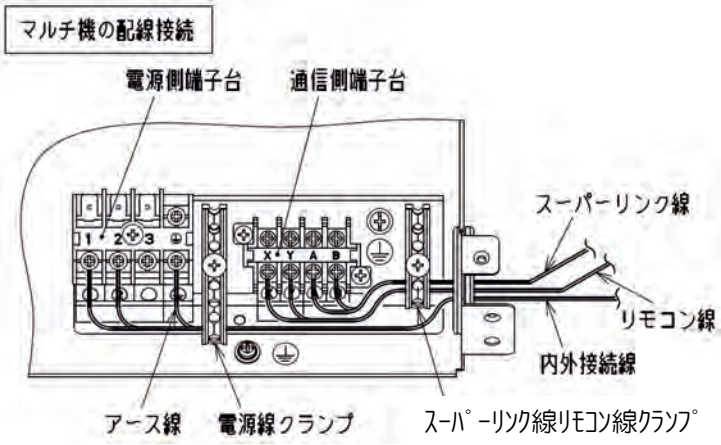
●電源線と通信線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。

●D種接地工事を必ず行ってください。

●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



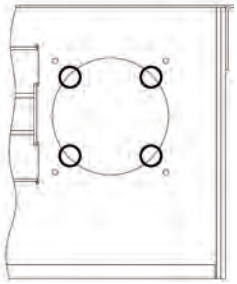




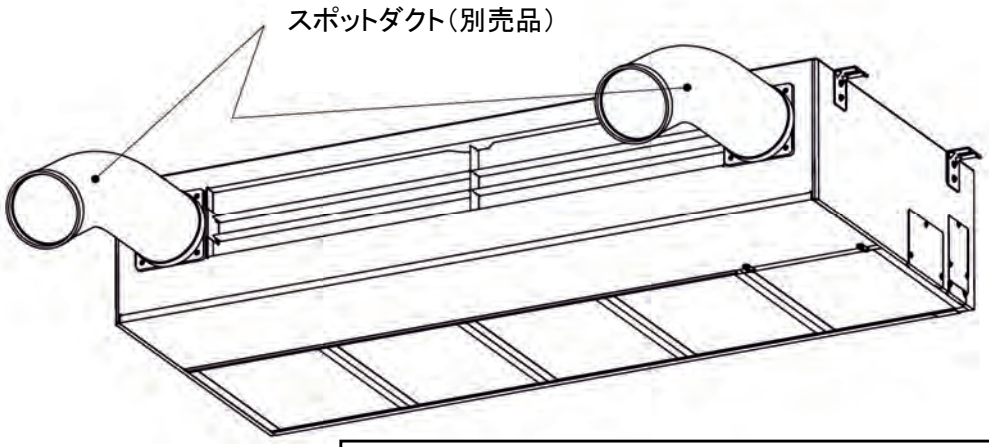
1. 冷媒配管穴から電源線をユニットに入れ板クランプを曲げて配線がたるみファンガードに接触しない様に固定してください。
2. 各配線を端子台に確実に接続してください。
3. 電源線と信号線を別々にクランプで固定してください。
4. コントロールボックスのカバーは、上側をボックス側に差し込み下面からねじ2本で固定してください。

⑧ スポットダクト取付け要領

●専用のスポットダクト（別売）：1mを2本まで取付けることができます。



1. 前面両側の四角いカバーを取り外した後、断熱材を丸く取り除いてください。
   断熱材は、円状に切り込みがあり右図〇印4箇所でつながっています。
   〇印部内側をゆっくり押して打ち抜くことができます。
   打ち抜いた断熱材は、ユニット内に忘れることなく確実に捨ててください。
2. 1本当たりねじ4本（カバーを取り付けていたねじ）で固定してください。
3. ダクトを曲げる時は、本体側パネルが変形しない様に支えながらゆっくり作業をしてください。
4. ダクトを前方に伸ばす場合など適宜ダクトの荷重を天井から支える様にして、本体側パネルの変形を防止してください。



（別売品）
品名：吹出しダクト
品番：SAD-10B
仕様：φ125　1m
（伸長時約 1.4m）
1 本

●ダクトの周辺・下部には、濡れて困るものは置かないこと。
使用する環境によってはダクト表面が結露して露が滴下する場合があります。

⑨ 据付けのあとに

1. 配管貫通穴のすき間を埋めて、小動物の侵入を防止してください。
2. 取外したファンガード（ねじ8本）を元通りに取り付けてください。
3. 取外したエアフィルタを元通りに取り付けてください。

⑩ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	